

## 提訴に至った私の思い

令和6年6月21日

原告 A

この度、3回目の新型コロナワクチン接種後、2年間にわたり、全身倦怠感や皮膚疾患が続いていることについて、国やファイザー株式会社などを相手取って訴訟を起こしたことについてお話しします。

私は、高齢の母と2人で生活しているので、母がコロナに感染してはならない思いから、令和3年夏、ファイザー社製のコロナワクチンを2回接種しました。

そして、令和4年2月、3回目の接種をするかどうかを検討するにあたり、長年お世話になっているドクターからコロナワクチンの危険性を聞いていたので、任意という事もあり、3回目は接種したくなかったというのが本心でした。

しかし、当時勤めていた事業所の経営者から「ワクチンを接種しない場合はその理由を自治体に報告しなければいけない」「仮に私が感染した場合は会社に損害が出る」といった言葉を2日間にわたって浴びせられ、とうとう、仕事を続けていくためなら仕方ないと思い、3回目を接種しました。

私は、3回目接種後、強い倦怠感、発熱、頭痛などの副反応が出るようになり、仕事も休みがちになりました。なお、コロナには一度も罹ったことがありませんでした。

そして左手に赤い発疹が出るようになり、発疹が隆起して水疱になり潰れるという症状を繰り返して広範囲へ広がっていきました。

いくつか皮膚科を受診しましたが、良くなる事はなく、長年お世話になっているドクターに相談したところ、高知大学特任教授の佐野先生が研究されていると教えていただき、なんとか佐野先生に診ていただきたいと思い、紹介状を書いてくれる病院を探して、佐野先生の診察を受けることができました。

皮膚を切り取り調べてもらったところ、ワクチン由来のスパイク蛋白が見つかりました。佐野先生に診てもらえるようになった頃には、胸痛、動悸、不整脈など、症状は酷くなり、外出も容易でなくなりました

もし、国やマスメディアが、ワクチンの副作用に関する正しい情報を発信していたら、コロナワクチンを何度も接種して、亡くなったり、後遺症で苦しむ人もいなかったと思います。

また、私のように、職場でワクチン・ハラスメントを受けて苦しむ人もいなかったと思います。

接種前の私の体は戻ってきません。だからこそ、国、自治体、ファイザー、元勤務先には、責任をとってほしいと思います。